

## 第2回滑川市まちづくり共創会議開催結果

開催日時 令和6年1月17日(水) 16:00~17:30  
会場 滑川市役所3階大会議室  
出席者 委員10名  
市長、副市長、総務部長、事務局(企画政策課)

	委員	備考
1	星名 照彦	座長
2	廣瀬 淳	副座長
3	福井 信英	欠席
4	清水 義彦	
5	土肥 薫	
6	石田 拓人	
7	深井 あゆみ	
8	樋口 幸男	
9	桶川 高明	
10	砂子 典章	
11	金川 奈那美	欠席
12	浦田 結那	欠席
13	長瀬 めぐみ	欠席
14	由井 千尋	欠席
15	山内 大河	

- 議 事
- ①市民セッションの報告について
  - ②将来ビジョン(案)について
  - ③滑川市まちづくり共創会議報告(案)について

上記3件について、包括的に自由に意見を交わして頂いた。内容については別紙のとおり。

## 【議事】

座長

ただいまから令和5年度第2回滑川市まちづくり共創会議を開会する。

議事1 市民セッションの報告、議事2 将来ビジョン（案）、議事3 まちづくり共創会議報告書（案）について、事務局から一括して説明願う。

高森企画政策課長

議事1の市民セッションについて報告する。

昨年12月4日、12月14日に、メリカ3階のホールにて市民セッションを開催した。第1回目は、47名参加し5つのグループに分かれ、「地域資源の活用、ブランディング」、「まちづくりと交流関係人口の拡大」、「農林水産業商工業、創業支援」の3つのテーマについてご意見をいただいた。第2回目は、36名が参加し、6つのグループに分かれ、「子育て支援」、「教育・人材育成」のテーマを中心に、「地域資源の活用、ブランディング」と「DXの推進」を絡めて意見をいただいた。市民セッションにあたっては子育て世代の参加しやすいように同じ場所に託児所を設けて実施したところ、子育て世代や高齢者の方まで幅広い年代の方にご参加いただけた。また、参加者の積極的かつ自由に意見を出し合っただき、共創会議で出た意見をさらに発展させたり、また共創会議では触れられていないような違う視点からの意見が出たりと、市民の声を広く聞き、施策に反映するよい機会であったと評価している。その中で出た意見で特に施策に反映すべきものについては、今回の報告書案の各施策に赤字で追加した。

続いて、市民セッション後に、市職員を対象とした意見交換会である職員セッションを実施したので、そちらについても報告する。今回の将来ビジョン（案）「幸せいっぱい 笑顔がいっぱい 光り輝く 滑川」について市職員で意見を出し合う職員セッションを今年1月10日に実施した。災害対応中ではあったが、若手職員11名がみずから手を挙げて参加し、将来ビジョン作成において欠かすことができない要素や将来ありたい姿、滑川らしさについて、積極的に意見を交わした。その職員セッションでの意見もふまえて将来ビジョン（案）を作成した。もともと前回の報告書案で示した「幸せいっぱい 笑顔がいっぱい」に、古くから滑川らしさを表す言葉である光とあかりを追加して「幸せいっぱい 笑顔がいっぱい 光り輝く 滑川」を将来ビジョン（案）としてまとめた。ビジョンを構成する「幸せ、笑顔、光り輝く」については、それぞれの言葉自体はありふれた言葉であり、これがなぜ滑川の将来ビジョンなのかということについては、誰に対しての「幸せ・笑顔・光り輝く」なのか、それがどういった意味なのか、何を指すものをわかりやすく共有化される必要がある。そこに滑川市らしさや滑川だからこそという理由が含まれている必要がある。それぞれの言葉の定義や解説を報告書（案）に追加した。報告書（案）を簡単にご説明すると、幸せいっぱいの幸せについては、まずは自分自身が健康であることが幸せ大きな要素であり、また滑川らしさ、滑川だけということではないが、越中富山の薬売り、売薬が富山県の一つの大きな文化であり、その中でも滑川市の売薬さんの歴史が古く、今も家庭配置業が数多く滑川におり全国で活動している。そういった精神が滑川に根付いているところである。もともと売薬というのは、江戸時代の参勤交代の際に、加賀のお殿様が他国のお殿様に対して薬を分け与えたことが、当時非常な薬を積極的に分け与えて喜んでもらった。そういった他の人の幸せを願う幸せを届けるそういった精神が滑川にも根付いているということで、滑川市に関わるすべての人に幸せを届けていきたいということが、自分自身だけではなく他人も幸せいっぱいするというところを滑川らしさとして提示している。また、滑川の自然環境、働きやすさ、交通インフラが充実した利便性、

子育て世代の支援充実などにより安全安心で快適な暮らしができるまちということで、多くの転入者が滑川に入っており、現在8年連続の社会増になっている。将来に向けて新しい人たちを受け入れながら、今いる市民とともに新しいまちの暮らしやすさを作っていく、まちとして幸せを広げていきたいということを提起した。

続いて、笑顔がいっぱいの笑顔について説明する。

笑顔については、1人で笑顔になるというより、やはり人との関わり、人と人の交流、相談やコミュニケーションなどが大きな要素であると考えている。こちらについても、売薬からルーツをつなげており、もともと売薬さんが薬をもって全国を回って各家庭とコミュニケーションを取っていた精神が笑顔いっぱいの要素、ルーツになるものと考えている。また、江戸時代から続く宿場町で、宮崎酒造などを修復保存して景観を保ったことにより、その景観に惹かれた方が徐々に集まり、空き家をリノベーションしてお店にすることによりにぎわいの創出が図られてきた。今年度は、新しい要素としてeスポーツのプロチームが拠点を開設するなど若い世代の起業家による空き店舗活用した多くの出店が続いている。こうした起業家の交流する場が自然発生的につくり出されて、またそういったチャレンジをすることを認めあう人達が笑顔で交流するのが、滑川の特徴であると考えている。それらに加え、滑川市では、子育てだけではなく、介護や生活に関することについて誰でも相談ができる暮らしの保健室を設置しており、市民の笑顔のための相談の場も他の自治体に先駆けて設置している。そうした将来に向けてさらに新しい感性や多様な人と出会える場を増やして、そうした人たちの違いを生かしたイノベーションを創出することで、市民の笑顔を増やす、そういったまちを目指すことを定義付けした。

最後に光り輝くにつきましては、滑川は、立山連峰や剣岳が県内でひときわ綺麗に見える立地で、特に今の雪化粧の立山連峰や富山湾に沈む夕日が立山連峰を染め上げるなどの景観、山沿いからは、県内随時の夜景が見えること、真っ赤な夕日が沈む海岸など、海山の景観が富山県内でも美しいという特徴がある。ねぶた流しの炎、ランタン祭りの明かり、ふるさと龍宮祭りの正三尺玉の花火の光などの数々の光のイベントが滑川市を光り輝くまちとして特徴づけている。そうした光り輝く滑川のイメージと、滑川市内の次世代を担う子供たちの無限大の可能性を引き出す教育を行うことで、光り輝く次世代の育成につなげていきたいという思いを光り輝くの定義付けとする。

こうした将来ビジョンについては、滑川で様々な政策を実施していく中で、その政策の是非を判断するための基準となるものである。将来ビジョン達成に向けて、効果的な政策を推進していく柱を「強く 優しく 輝く 滑川」としている。報告書（案）に将来ビジョンや各政策の構成について、建物をイメージとして示している。ビジョンについては、市民向けだけでなく、滑川市外の人たちに対して、滑川はどういったまちかというイメージを伝えるものでもあり、遠くからでも見える建物の屋根に例えている。地域資源の活用、ブランディングにつきましては、まちづくり関係人口、産業、子育て支援などの市の魅力を外部に知ってもらえる政策すべてに関わってくることから、この柱の一番上、いわゆる天井の部分に位置付けている。また、まちづくり関係人口、産業、子育て支援などについては、ビジョン達成に向けての政策となり、将来ビジョンである屋根を支える柱としている。また、最後のDXの推進は、サービスの向上や効率化を促進させるための手段となり、こういったすべての政策に関連することから、この建物の土台と位置づけている。将来ビジョンの達成に向け、一番下部に市役所の組織体制、財政基盤を位置付けているが、これらのもと、手段である政策の実行と検証を進めることで、市民の行政ニーズに対応することを示している。

以下の取り組む政策については、市民セッション等で取り入れた意見について、赤字で追

加しており、またさらに下線を引いているものについては、特に施策に反映できるだろうという箇所を示している。

この報告書（案）、ビジョン（案）を昨日特別アドバイザーに説明したところ、ビジョンについては、光り輝くという言葉が入ることで、滑川らしさを出たという評価をいただいた。また、市民セッション等を踏まえ追加された施策についてもっともなものであるという意見、また共創会議でしっかりとした議論を踏まえた上で、市民の意見を聞いているので、施策の一つ一つについて納得性があるという意見を頂いた。今後については、今回の共創会議においてこの報告書案と将来ビジョンを今回で一度報告書としてまとめ、これから施策の細かい議論を形にしていくフェーズとなるという意見をいただいた。甚だ簡単ではあるが、事務局からの説明は以上とさせていただきます。

座長

議事1の市民セッションの報告に関しまして、何かご意見などあれば。

委員

市民セッションの1回目に参加したが2回目に参加していない。参加した第1回目の市民セッション開催のタイミングで前回の報告書（案）が一般に公開されてなかった。前回の報告書（案）をベースに議論するにあたり、細かいこともわからない状態で話すと、参加者の話がぼんやりしたと思ったので、そういったところも踏まえて市役所内でこの市民セッションの反省会をして出た改善点ということがあれば教えていただきたい。

高森企画政策課長

市民セッションの会場で、主な共創会議報告書の取り組みについては、画面表示し、参加者に説明した。参加者に短い時間で、その内容について理解してもらいながら意見をいただくということは難しかったと反省し、それを踏まえて第2回の市民セッションの際は参加者に事前にまとめた資料を送付し、内容をご確認いただいた上で、参加していただくこととした。これにより、資料について事務局からの説明も短くなり、広く市民の方からの意見をお聞きする時間を長くとることができた。

委員

2回目は、事前に配布して、参加者にやさしい会議になって良かった。プロジェクトの工程管理も大事と思うのでそういったところとか、今後、市役所内でもいろんなプロジェクト走り始めるとは思うので、企画政策課の事業は企画政策課で反省会して、市民セッションを開催するときやファシリテーターを入れるときの注意点などの共通認識を市役所内で持ってもらえれば、これからどんどん良くなっていくと思う。

座長

他に何かご意見ご質問ございませんでしょうか。

市民セッションに関しましては、2回出席した委員が4名いる。2回出席した委員、どうでしょうか。

委員

2回参加して思ったのは、これだけたくさん言いたい人がいることがよかったと思う。割と無関心な方も多いのかなと思いつつ、各回の参加者も多くいて、2回続けてこられた方

もたくさんいた。これは個人的な感想だが、そういう人たちこそ宝と思った。参加者は、それぞれ違う立場なので、意見は当然バラバラになった。しかし、話せば話すほど方向性が近い人が出てきたり、私も人前で話す仕事をしているが、最後のプレゼンテーションを聞いても、プロみたいな人がいた。すごい方がたくさんいたので2回で終わりではなく、点がたくさんあったので、それを線に結びつけるとか面にする場づくりをすることこそ、この将来ビジョンの成功に繋がると感じた。とかくビジョンというと抽象的な言葉が出てくるが、実際に実施するのは市役所ではなくて市民なので、市民セッションの参加者の協力いただき、もっともっと詰めて市民の意見を集約するという、そういう流れができて良いと思った。職員セッションも素晴らしいと思った。この市役所の有志の方々と、市民の有志の方々と、何か施策などの方向性が見えてくるのではと考えた。そういう意味ではこの間の市民セッションは、時間制限があり、もっともっとしゃべりたい人が多くいたと感じた。

第1回目は8人ぐらいで1グループだったが、共同作業の場合、量的にも4～5人がベスト。今後、こういう場を設定するのであれば、聞くだけではなく話したい人たちも多くいるのでそういったことに配慮して、会場の大きさとかグループの人数とかを設定していくべきではないかと感じた。

座長

ただ今の意見について、事務局から。

高森企画政策課長

グループディスカッションのルールについては簡単には説明した後に参加者が意欲的に意見交換をした。参加者が人の意見を聞きその意見に自分の意見を重ね合わせて、意見を発展させたことがすごく印象に残っている。もともとは共創会議の意見を補完する意味合いで市民セッションを2回開催したが、委員の評価にもあったとおり、いろいろな考えを持つ市民がたくさんいることがわかった。そういった市民との対話の機会を、増やして施策に反映させていくということは非常に大事なことで認識しており、来年度も、ぜひ引き続きこういった市民セッションのようなものを開催したいと考えている。

委員

市民セッション両方出席した。本当にまちに暮らしている普通の人に来ていて、その人の意見で滑川市の魅力の中の一つに、何もないことだと言っていた方がいた。静かで平和なまち、これも滑川市のいいところ私はそういう町が好きだと言っている市民の方がいて、それだとこの後、楽しいこととか、面白いこととか、滑川市の外に求めてしまって、どんどん出ていってしまう。滑川自体が空洞化するのは寂しいことだなんて話を聞きながら思ったが、どうしてそういう意見が出るのか考えたときに、実際に行動として現れていないから想像がつかないのではと思った。今話したものをまとめている資料の内容が具体的な行動になって、まちの中に見えてきたら、みんなの意見が少しずつ変わって行って、みんなだまちを盛り上げていこうかなという話になると感じた。

委員

2回参加させていただいたが、滑川に住んでいないので実際滑川の方々がどんなふうになっているのかな、よくわからなかったが、実際市民セッションに参加して、2日間、別の人たちと話したことにより滑川市の皆さんも一人一人自分の思いを持っており、良いとこ

ろをだして、かつ、もっとこうなったらいいよねっていう意見も持っておられたので、そういう意見をもっと政策に組み込んでいくことが重要だと思った。

#### 委員

私は、何もないことは別に悪いことではないという感じで皆さんの話を聞いていたが、どうしてもこうあれが欲しいこれが欲しいこんな施設が欲しいということに注力しすぎて、例えば、滑川市として、住むところがあって医療施設が充実して子育てがしやすい。子供遊園地や水族館連れて行きたいとなったら早月から5分で行ける。周りのものを取り込みながら、ロケーションを生かすことを考えれば、もっともっと可能性がある。滑川に住む、買い物する場所もある、遊園地はないけど東福寺野自然公園で遊べる。そういったことを皆さんのご意見を聞いて思った。ここで何回かお話をして気がつかなかったこと。私は、滑川のこと結構勉強したつもりだが、電車の利便性が非常に高く東西南北行けるっていうのは、全く気が付かなく、上市に行ったら、何があるかなって考えた。そういう滑川だけで全部完結するというのではなく、少し広域的なものの中で、滑川の市民として住んで生活する方が多くなるような方法も考えてよいと思う。

#### 座長

いろいろな意見について、市長何かあれば。

#### 水野市長

2回の市民セッションで、参加者からいろいろ意見いただき感謝している。この2回で終わりたくないと考えている。こういった機会を、市民の意見を集約して、小さく話せるような雰囲気を作りたい。意見を言いたい人、その地域の宝を点から線に線から面にしたい。これでお終わらせずに、この後もこのまちづくりに関していろんな意見をいただいた上で、いろんな政策に反映させていきたいと思う。滑川だけで完結するわけではなく、人口がどんどん減っていく中で、横の自治体などとそれぞれの広域的な連携をやっていけるような雰囲気づくりをやっていければなと思う。

#### 座長

そろそろ議事2の将来ビジョン（案）に話を進めたい。この将来ビジョン（案）に関して、ご意見ある方。

#### 委員

将来ビジョンに光り輝くが盛り込まれたということで、ランタン祭りとか、キャンドルイベントとかいろいろやっているのも非常にうれしいと感じている。

#### 委員

口ずさみやすいというカリズムがすごく良くなったので、内容に関しても、理論に関しても、全然異論はない。あえていうならばこの滑川をこれ読めないというので滑らない街のキャッチフレーズができた。将来ビジョンの滑川を漢字にするか、ルビが要るのか、ひらがなにするのかの検討が必要。どこに向けて発信する将来ビジョンか。

#### 高森企画政策課長

先ほど報告書の建物などのポンチ絵にもあったが、このビジョンについては、市民向けと

市外に向けてという二つの側面がある。そういった意味合いからいうと、確かに滑川が、一見し読めるのかどうなのかというご意見はごもっともかなと思う。ただ、将来ビジョンを推進していく上での政策の推進の柱「強く やさしく 輝く 滑川」、またキャッチフレーズとして「滑らない街滑川市」もある。この滑川というのは、ひらがなにしてみても読みやすさを重視するのがいいのか、漢字のままにしてみても滑らない街というところにつなげる方が外部に対するアピールとしていいのか、そういった点についてはもう少し市役所内でも検討してみたい。

座長

滑川の表記は漢字とひらがなどちらがいいのか。ご意見お聞きかせ願いたい。

委員

改めて滑川の文字を見たときに、やっぱり読めないなと思う。自分は滑川生まれで、何の違和感もなく読んでいるが、これを見たときに読めるかというところ、この字面も含めて少し珍しい。皆さんの話を聞いて、せっかく滑らないを打ち出したからにはこの字を大事にする必要もあり、なかなか難しい。

委員

滑川がSNSでなめがわって読む人が多い。これをきっかけに滑川をアピールすれば良い。

座長

滑川町の方が有名かも。

委員

滑川を検索しても、なめがわが出てきたりする。なめりかわを知ってもらうにはひらがななど、読みやすいもので最初浸透させていけばよい。

委員

漢字にして読み仮名をふればよいと思った。

委員

私も東京の友達からなめがわと言われる。もう一つ県内で射水のことをしゃすいと読む人もいる。例えば、射水がどういう表記の仕方をしているかを分析すると少し参考になる気がする。

委員

なめりかわと読むことを浸透させる方法については、何かと紐づけることが良いと思う。今回の議題にもあるブランディングなどにも結びつけられる何かがあれば、覚えていただけることもあると思う。ビジョンに滑川をどのように入れるのがいいの考えると、ここは漢字で入れたほうが、イメージ付けもあり良いのではと直感では思った。

委員

もちろん滑川は漢字でいいと思うが、私が高校時代に滑川から富山に出た際に、最初に言われたのが、滑川の人、だからナメリカンだとみんなに言われて、ナメリカンという言葉

が富山にはあると思ひ衝撃を受けた。

委員

打つことが大変なのでスマホは音声入力を使っている。その時に、なめりかわって言ったら、アメリカと入力される。音声認識も滑川はアメリカになるので、先ほどのナメリカンもあるし、語呂合わせ、射水は射水ムズムズでニュアンスを浸透させようとしているような気がして、いいアイディアと思った。これをなめりかわと読ませたいという皆さんの思いがすごく伝わってきたので、ルビを振って、将来ビジョンですから将来はこれをなめりかわと読ませたいという発信の仕方もあるのではないか。

委員

繰り返しになるかもしれないが、違う視点で話したい。そもそもビジョンとは、関係者に向けてみんなでここに行きましょうっていう言葉。そのため、正直外部の方にビジョンを知ってもらう必要があるわけではない。コカ・コーラ社のビジョンって、多分皆さん知らないと思うが、コカ・コーラ社のイメージはみんなにわかる。滑川と言えば滑川のイメージがパッと出てくるっていう状態を目指すのは別ですることにし、このビジョンに関しては、わかる人は読めればそれでいいと思う。

むしろ、滑川を読める人たちを増やしていくっていうところが大事な要素と思う。

将来ビジョンは、子どもが成長した時代の滑川をイメージしているのだろうと考え、私の子どもにこの資料読むように言ったが、子どもは長過ぎるとので読みたくないと言った。誰に読んでもらいたいかというところで、次世代の育成とか、前の時に若者世代のまちづくりっていう言葉もあったと思うが、子どもが読みたくなるような編集方法は必要。ただ、行政文書としてこういう書き方が必要ということであれば、概要版という形で、わかりやすい別のものを作成するなど検討が必要。

その時は、市民セッションのフライヤーみたいに行政内部で作成するのではなく、ちゃんとプロに依頼した方が結果としては効果が高くなるので、この土台としての文章があって、ここからさらにどう伝えていくか、誰に伝えていくかを意識して、この後やっていけば、市民への浸透や訴求という部分で広がりやすくなると思う。

座長

委員のご意見に関しまして、事務局の方から、回答願う。

高森企画政策課長

今回のビジョンについては、委員おっしゃる通り、滑川のイメージを作るということで、職員等からの意見をもとに作成したものである。滑川をイメージしてくれる人を増やすというご意見ももつともであるし、先ほどからもあったが、滑川と言うとアメリカとAIで文字起こしされて出てくる。例えば、AI文字起こしで滑川って言った時にちゃんと滑川って変換されるぐらい滑川という言葉が浸透させることもブランディングの中に入れるのも一つの考えなのかなと思った。また、確かにこの共創会議の報告書、施策の羅列された資料で読みたい文書とはほど遠いと指摘もいただいた。これは、市民の方、特に若者世代の人たちに読んでもらって認識してもらうためにはどのような形で表現して発信すればいいのかということ、市役所内でも考えて対応していきたい。

座長

将来ビジョンに関してでも、それ以外でも他にご意見ご質問があれば。

柿沢副市長

補足だが、この光り輝くという言葉は、実は市民セッションの際のディスカッションでできた言葉である。滑川には光り輝くものがたくさんある。ホタルイカも光っている、光に関連するイベントもやっている、立山連峰もっている、夕日も光っている、そういう中で出てきた言葉である。市民とまさに共創でできた言葉であるのでその経緯を補足する。

委員

幸せいっぱい笑顔いっぱい光り輝くという文章でいろいろ書いていただいて、これはどちらかという行政がやっていきたい、目指したいという形で書いてあって、今おっしゃったように市民の方がどうアクションして欲しいかみたいな要素がないので、どちらかというところの市民の人もどう関わって欲しいかっていうのをに入れていくと、行政と市民が協働していきましようというメッセージが出せると思うので、考えていただければ。

座長

市民も関わるような言葉を入れることについて、市で何かあれば。

柿沢副市長

今の意見について、市民との関わりってどのように記載すればよいか。

委員

例えば幸せいっぱいっていうところだったら、しあわせるって言葉を富山県が作られたと思うが、市民がどう動いて欲しいかといことを入れたらよい。例えば、新しい人たちを受け入れながらというところで市民の人にも新しい人を受け入れましようよっていうことをメッセージとして伝えて欲しい。

柿沢副市長

市民というワードが重要なので、意識するようにする。

座長

外になれば、議事3のまちづくり共創会議の報告案に関して、ご意見を願う。

委員

まず18ページに、旧金融機関は建物がしっかりしているという記載があるが、具体的にどこの建物か。古い建物はしっかりしているイメージがあるが、耐震性断熱性この辺りに注意したほうがいいかなと思う。古い建物はしっかりしているというイメージだけで話している気がしたので、検討していただけたらと思う。

水野市長

多分、信金の田中支店であった建物だと思う。

委員

それぐらいであれば多分大丈夫だとは思う。石積みとかレンガの建物をイメージしたので。

続いて26ページ、市役所からRPAシステムを導入していくべきと書いてある。市役所内はこれで伝わると思うが、報告書は市民の方向けなので、RPAシステムのことについてわからないと思う。何か違う言葉とか、誰に向けたものなのかという観点で言葉の使い方を見ていただければ。

座長

今の意見に関しまして、事務局の方からお答えできることならばお願いします。

高森企画政策課長

何か古い金融機関がすべてしっかりしているという誤解を招くような表現にもなっている。他にもチェックし、修正したい。専門用語については、わかりやすい言葉で、もしくは説明を入れるなどし、皆さんに理解してもらいやすいような表現に変えていきたいと思う。

委員

ホタルイカの身投げ情報についてネットなどで騒いだりして、興味がある部分なのかなと。滑川市から発信しても面白いのかなと思う。あとはもう、このふるさと納税のホタルイカに関しては、プロトン冷凍した生のホタルイカをふるさと納税に反映したいと以前から考えているが、量がそんなに取れないので。その次の8ページの足湯はタラソピアと同じで使えない状況になっている。皆さん知らない。どのようにして改善していくか。

水野市長

足湯は、冷たいのはそのまま深層水を上げて使える。暖かいのは、タラソピアで加温するがそのための電気設備が老朽化しており、今にも壊れそうで、タラソピアを営業していくために、足湯を取り止めていたという経緯もあった。タラソピアが閉館となって、タラソピアの方向性を3月末に出すこととしている。ロケーションもいいですし、足湯をどう活用していくかもそれも含めて、検討したい。足湯は、何かしらの方向で存続させていきたいなという思いはあるが、費用面での課題もあり、その辺りも含めて、検討したい。

委員

17ページ、地域の食材を活用したレストランだが、今後インバウンドを受け入れるにあたって、滑川市内でハラールに対応しているような店があるのか気になった。そういったことを含めたお店をアピールするとかあればいいと思う。ハラールに対応した店がなければつくるなども必要。

座長

滑川市にハラールに対応した店はあるのか。

柿沢副市長

滑川市にはない。

委員

先ほど話があった少し表記を整理してということになると思うが、これを作ることが目的ではなく、これを実行する手法を考えていかないと、ただ作るだけで終わるという気がす

る。優先順位があるのかどうかわからないし、活躍される方がここから何かキーワードを使って行動することを推進して、やっとそこで成果が出るなという気がする。

委員

ちょっとした懸念だが、よくこういう資料を作って行政主導でやっていこうとすると、何でもかんでもハードを整えることで解決しようとする傾向があると思っている。ハード整備はどうしてもお金もたくさんかかるので、ソフトの方に注力して、ソフトからこの課題を解決していく視点を持ってもらえると嬉しい。

柿沢副市長

おっしゃる通りで、一般的に行政はハードで解決したし、まだまだしているのが実態だと思うが、市長はその姿勢を変えようとしている。滑川市から変えようとしている。市民主導、民間主導の中で、ソフトを含めて、一緒にやっていくという姿勢で行きたいと考えている。

委員

共創会議の報告書を、どの層に向けて発信するかという話があったが、簡略化して、誰でもわかりやすい何か1枚のツール、目で見てわかりやすいものがあつたらいい。

座長

報告書の案は、いつとれるのか。

柿沢副市長

ご検討いただいた意見をもって共創会議へと修正かけて、最終的な報告書としたい。共創会議の最終報告書を今、検討をスタートしている総合計画の中に反映する。共創会議の報告書自身は一旦終わるが、共創会議は、次の課題の検討ということで続けていきたい。

座長

そういったことを踏まえて、ご意見あれば。

委員

共創会議が続くことにびっくりした。いったん報告書が確定して、これは終わって、次ワーキンググループがメインになっていく。いろんなワーキンググループが走り始めて、どんなことをやるかというのはこの場で何かしら共有していく感じだと思うので、ゴールまでこういう順番でいくみたいな行程表みたいなもの、そういうものがあるとみんなわかりやすいかなと思う。

座長

その通りだと思う。これに対して事務局から返答願う。

高森企画政策課長

しっかり市役所内でロードマップについては整理する必要があるかなとは思っているが、私がイメージしているものとしては、やはり県の成長戦略会議とプロジェクトチームといった関係性。今回共創会議で一度報告書としてまとめるが、来年度ワーキンググループで、

いろんなテーマに基づいて議論した内容を共創会議でまた議論し、必要な施策について報告書に反映する。そういった流れをイメージしている。

#### 委員

2月に市長の任期が3年目にはいる。4年間という区切りの中で3年目からプロジェクトを走らせていく段階だと思うので、なるべくワーキンググループでも議論していくのではなくて、小さいところからやりつつ、そこで議論と併走していかないと、そういったところも気をつけていただければ。

#### 水野市長

2月で3年目を迎える。形にできるものから、少しずつ形にしていきたいと思っている。その中でやはり幸せいっぱい笑顔いっぱい、この幸せ、幸福感をどう上げていくのか。街中で笑顔広がるような、そういうまちにする。そうなるにはどういった施策、先ほど言われたようなハードばかりではなくて、いろんなソフトを入れながら、そういったことで市民が幸せを感じてくれる笑顔溢れる、さらに光輝くまちになるように、形になるような政策、施策を失敗してもいい、失敗しながら、それぞれを考えいきたい。実行しなければわからないので、まずはが実行するという思いでいる。少しでも、そういう形で進めていければなと思う。今後、第5次総合計画の改定を予定している。昨日は、そのアドバイザーの方と2時間ほど会議をした。その方の本業は組織を根っこから活性化する、組織風土改革の支援をしている方だが、本当に細かいところまで見ていただいている。本当に真面目に取り組んでいただいている。その中でも、議論を重ねながら滑川を少しずつ良いふうに変えたい、組織を変えたい。そういう形が見えるような方法で滑川を少しずつ変えていければという思いがある。これは私1人で絶対できないので、市民の方々をはじめとした皆様方にいろんなご助言、ご協力いただきながら、実現に向けてやっていきたいなと思う。幸せ笑顔を市民とともに作る共創、そういった形の、総合計画に改定していきたいなど。この共創という言葉を大事にしていきたいというふうに思っている。

#### 座長

市長から思いがけずまとめのことばがあった。他になければこれで終了とする。委員の皆様、本日は貴重なご意見ご提言ありがとうございました。